



コンさる君の

今日も視界良好

➤ 幹部が患部になっている！？

中小企業診断士 長尾 康行



フラッグシップ経営代表、中小企業診断士の長尾です。4月に入り春本番といったところですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は4月6日で40歳になります。寿命から考えると折り返し地点ですね。人生の後半戦に突入することの充実感と少しの寂しさが入り混じったような心境です。おそらく死ぬ直前まで仕事をしているかと思いますが、そのためには健康が第一です。健康管理も仕事の内と思い、運動などもしていこうと思います。

経営改善の現場で最近特に感じるがあります。それは業績の悪化、財務状態も棄損され深刻な経営状況下であるにも関わらず、危機感や意欲が感じられない幹部が多いことです。外部専門家の私の方が経営改善に意欲的で幹部はのんびりしている場面によく出くわすのです。そういう場面では「経営者の仕事とは」「幹部（管理職）の仕事とは」「一般社員の仕事とは」という話をします。ドラッカーの「マネジメント」から引用させていただきますとそれぞれの仕事の定義は以下ようになります。

1. 経営者の仕事は会社として成果を出すこと
2. 幹部（管理職）の仕事はチームとして成果を出すこと
3. 一般社員の仕事は個人として成果を出すこと

もう少し噛み砕きますと経営者は事業を管理して成果を出す、幹部（管理職）はチームと仕事を管理して成果を出すということです。しかしながら、経営改善を要する企業の多くの幹部は管理する対象も求められている成果も理解できていません。一方で一般社員は個人として成果を出すことが求められているので自分の効率を追求すれば良いのです。より少ない時間で多くの作業や訪問ができればOKです。

しかし、幹部はチーム全体で「成果」を出すことを求められているため売上や利益などの結果を出さなくてはなりません。残念ながらことに結果に興味もなく、何をすれば結果が出るのかも考えもしない幹部が非常に多いのです。幹部の心に火を点けるのもコンサルタントの仕事と考えていた時期もありますが、多くの方は私よりも年上で社会人生活も長いのでそんな話をするのはばかられます。



経営コンサルティングの現場で感じるこのような停滞感を払拭するにはもちろん外部専門家の力量も必要ですが当人が変わらなければならないと思わなければなりません。皆様の会社で少しでもそのような風潮がある場合は早めに対処する必要があります。腐ったみかんは早く除去しないと周りも腐っていくのです。

対処の方法については経営者が理念や方針、予算、アクションプランなどを強く押し出し続ける事です。そうすればそれに協力しない幹部は勝手に去っていきます。これを「社風が人を追い出す」と私は表現しています。何が問題で何に取組み、どのような成果を上げるべきかを明確に強く伝えましょう。そして、経営改善が必要になった要因は外部環境のせいではなく自分たちの心にあったのだと認識することが改善の第一歩だと思います。

➤ 3つの初心から学ぶこと



こんにちは、コンサルタントの住吉です。桜も満開を迎え、新年度の始まりですね♪ いつも御堂筋線を使って通勤していて、毎年この時期になると通勤ラッシュの洗礼を受けながら緊張した面持ちで出勤する新社会人の方をたくさん目にします。私はこの春から社会人6年目になります。初心を忘れず仕事に励まないといけないと感じます。

さて、最近のお仕事についてですが、以前からFacebookやホームページ等でお伝えしている「ものづくり補助金」の申請支援の案件が非常に増えています。これは、『中小企業や小規模事業者が、生産性の向上に繋がるこれまでにない革新的な商品・サービスを開発するために必要な設備投資等について、国から最大1,000万円の補助金を受けられる』というものです。非常に競争率が高く採択率は40%程度。企業にとっては大きな飛躍のチャンスとなります。お客様のおもいが実現できるよう、誠心誠意ご支援させていただきます！

ところで、冒頭の「初心を忘れず～」は「物事を始めた頃の新鮮で純粋な気持ち、志を忘れてはいけない」という意味でよく使われていますが、その語源についてはご存知ですか？約600年前、能楽を大成させた世阿弥の伝書「花鏡」の中に記されていた「初心不可忘（初心忘るべからず）」が元々の言葉です。しかし、実はこれには続きがあり「是非初心忘るべからず。時々初心忘るべからず。老後初心忘るべからず。」と3つの初心に分けて、芸の向上をはかるための教えが説かれています。また、世阿弥は「初心」を「芸やその芸に初めて行き着いた時の経験・境地」という意味で使っています。1つ目の「是非」は、若い頃の未熟な芸を忘れなければそこから向上した今の芸も正しく認識できるということ。2つ目の「時々」は、年を経るとともに各段階で学び得た、それぞれの初めての芸の境地を覚えていることによって、幅広い芸が可能になること。最後の「老後」は、年老いてからでさえ、ふさわしい芸を学ぶ初心（芸の経験・境地）があり、それを忘れずに限りない芸の向上を目指すこと、と説かれています。

世阿弥の言葉を現代に置き換えると、人生の様々なステージで経験したこと、学んだことを忘れずに常にチャレンジし続けること、でしょうか。永く受け継がれている言葉は、やはり学ぶべきことが多いです。またご紹介させていただきます。

➤ 長尾のこだわり

支援先のお客様に経営上の指導をさせていただく立場から、当社自体が皆様の見本にならないと話になりません。全てが見本と言えるほど立派ではないのですが、私が特にこだわっていることを少しご紹介いたします。

1. 数値管理が迅速にできている。
毎月1週目には前月の試算表ができています。これは独立以来10年間1か月もサボることなくやり続けています。
2. 増収を継続する。
売上はお客様や市場からのお役立ち度としていますので、それが前年より下がることは私としては許せません。売上が低調になると同時にWEBサイトのリニューアルを施し、新サービスを打ち出し受注につなげます。危機感を抱いてからWEBサイトの立ち上げまで1か月で行います。そのやり方で10年連続増収という結果を出しています。
3. 社員とよくコミュニケーションをとる。
これは当社が少人数だからできていることかもしれませんが、経営者の私が何を考えているのか、どういう事にこだわっているのかをよく話しています。これは今後社員が増えてもコミュニケーションの方法に工夫を凝らしながら継続します。

ほかにもいくつかありますがどんなに忙しくても上記の3点については妥協しません。この考え方に賛同できない社員は私と働くことはできないということになります。お客様に指導する立場であるからこそ、自社はきちんとしておきたいと思うのです。



発行元：株式会社フラッグシップ経営 経営革新等認定支援機関

〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町1-8-2 三晃ビル2階

TEL：0120-34-8776 MAIL：info@flagship-keiei.co.jp

URL：www.flagship-keiei.co.jp



株式会社フラッグシップ経営 Facebook ページ
@flagship_keiei お待ちしております。



株式会社フラッグシップ経営 Twitter
@flagship_keiei にて随時情報発信中！

